

E013-021

会場：201B

時間：5月27日 16:00-16:15

## 1999 - 2002年の太陽活動極大期に日本で観測された低緯度オーロラ

### Mid/Low-Latitude Auroras Observed in Japan During the Solar Maximum Period of 1999-2002

# 塩川 和夫[1], 小川 忠彦[2], 上出 洋介[2], 湯元 清文[3]

# Kazuo Shiokawa[1], Tadahiko Ogawa[2], Yohsuke Kamide[3], Kiyohumi Yumoto[4]

[1] 名大STE研, [2] 名大・STE研, [3] 九大・宙空環境センター

[1] STE Lab., Nagoya Univ., [2] STE Lab., Nagoya Univ, [3] STEL, Nagoya Univ, [4] Space Environ. Res. Center, Kyushu Univ.

[http://stdb2.stelab.nagoya-u.ac.jp/member/shiokawa/aurora\\_head.html](http://stdb2.stelab.nagoya-u.ac.jp/member/shiokawa/aurora_head.html)

1999年から2002年の太陽活動極大期では、磁気嵐に伴い11例の低緯度オーロラを日本で観測することに成功した。そのすべてが、波長630nm(酸素原子)の赤い発光が日本の北側で増光したものであった。またその中の数例では、同時に窒素分子イオン(波長427.8nm)が数レイリーほど増光しており、高エネルギー電子かエネルギーの高い重イオン・中性原子の

降り込みを示唆している。これらの赤いオーロラは、磁気嵐中のサブストームで増光することが多かった。講演では、Stable Auroral Red (SAR) Arcとも関連づけて、この日本で観測される低緯度オーロラの成因を議論する。